

提携米通信

2010年3月号・黒瀬農舎発

雪の中のチューリップ祭り



先月中頃、私たちの村ではチューリップの品評会とチューリップ祭がありました。

外は一面の銀世界で、この時期寒波が来て、日中の最高気温もマイナス5℃でした。

北国の寒くて暗い真冬は、誰もが気が滅入ります。この催しは小さな規模ですが、地域の人々の心に明るさや安らぎを与え、とても好評です。

でもなぜ、こんな寒い秋田の村でチューリップ祭があるのかということを紹介しておきます。

チューリップというと風車の国オランダを連想します。

そうなんです。我が村は半世紀近く前に、干拓の国オランダの技術援助によって、琵琶湖に次いで2番目に大きい、平均水深1メートル程度という浅い湖だった八郎潟を干拓して誕生した新生の大地にできた村なのです。

我がロッジの建っている場所も、海拔マイナス50センチ程度であり、田圃は、土を運んで来て造成したのではなくて、昔の湖底そのものを使っているのです。

だから田圃は、太古以来湖に堆積した有機物に富み、栄養分の多い土壌ですが、欠点は、低湿地なために、雨が多い年は畑作物が根腐れするなど全滅することや、ぬかるんで作業に困ることです。でも、お米・水稲にとっては、名の通り好適です。

このような、オランダとの縁で、我が村でチューリップが取り入れられたのです。

我が村の一部の農家は、春の稲の苗作り時期以外は、空いているビニールハウスでこのチューリップを、数日おきに収穫する程度のごく小規模に作っています。

我が農舎では、この時期、花の収穫日に出すお米で、箱の上部に余裕のある場合にだけ、お入れしています。届かなかった方は、このような事情ですのでお許し下さい。

この冬は、昨年と比べると暖冬傾向は治まりましたが、でも異常気象継続のようです。下旬になると種籾の準備です。今年も頑張りますのでご支援宜しくお願いします。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3086 FAX 0185-45-2887



☆お餅は無添加
ですので、万
カビが出た時は、
賞味期限内は代
品か返金します。
ご連絡お願いし
ます。

有機栽培の応援者／有機資材の信頼判別は業者の生き様

米作り農家のオフシーズンもそろそろ終わりの時期を迎え、今月になると種籾の準備や、有機肥料の案配や耕し方の段取りなど、気ぜわしくなってきました。

でも、冬のオフシーズンといっても、屋外の田圃作業がオフで、機械や施設の整備や、研修会などで、結構忙しくて「1週間から10日ほど、ゆっくり湯治場で過ごしたい。」との何年も前から願いは、今年も実現できずに終わりました。

写真は、2月に行った我が農舎の関係生産者中心の研修会のスナップです。

毎年、この時期にも、有機資材や栽培方法についての勉強会と、その時々の農政や農業状勢についての研修や情報交換を行っています。

今年も、磐田市の川合肥料さんに遠路来て頂きました。



川合さんとの付き合いはもう四半世紀に近い長期に及んでいます。

有機栽培が今のように定着していなかった当時では、化学肥料がいいか悪いかは別として、化学肥料は、大きなメーカーが扱っていることと、成分確認が可能なことで、成分や品質など信頼性は確立していました。

しかし有機肥料は、表示された有効成分を分析して再確認したところで、化学肥料を補ったまがいものかどうかや、原料の素性などの判別は困難です。

このため有機肥料業界は、もっぱら産業廃棄物に類するものの処分を扱ういかがわしい業者が多くおり、安心できる有機肥料を取り扱う業者は全国各地を探しても、なかなか見付かりませんでした。

また、馬糞を原料とした有機質肥料では、その原料馬糞が肉用馬ならば問題は少ないですが、競争馬の厩舎の馬糞が利用されていると、抗生物質が多用されている可能性が高く、土壌への有機物の補給には効果があっても、有機栽培に使用するのは困ります。

結局、業者の生き様を知るなど総合的に信頼性を確認する必要があったのです。

数年にわたり全国規模で探して、やっと見付けたのがこの川合肥料さんでした。

現社長の川合さんは、代々続いた老舗の肥料問屋の子息で、大学を卒業して跡継ぎになる一時期、親と意見が合わず、整体や東洋医学に興味を持ち一時その脇道に入った後に、父親の高齢で老舗肥料問屋に収まった直後でした。

彼は、化学肥料中心の商売を、有機中心に転換し、今では日本一信頼できる有機肥料専門会社になりました。整体や東洋医学への脇道が生きたようです。

そして彼は、「三粒の大豆／一粒は、空を飛ぶ鳥のために。一粒は、地の中の虫のために。残りの一粒を、人間のために播く。」を社訓としています。

今では、勘や経験だけでなく、私が大事にする「有機を科学するお米作り」のよきパートナーとして我が農舎を応援してくれています。